

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼市立面瀬中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校, 各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒988-0206

宮城県気仙沼市岩月寺沢44

E-mail omose-chu@kesenuma.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 89名 女子 89名 合計 178名

幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1, 2-1に対応

当校では、「地域との結びつきおよび防災」を活動テーマとして設定し、他と協力しながら共に生きようとする力を、ESDの実践を通して育むことを目標として設定した。

具体的には、①地域との連携に係わる活動、②防災に係わる教育、③環境に係わる学習を行った。

① 地域との連携に係わる活動

職場体験では、地域のさまざまな事業所で2日間体験を行った。事業所の方と交流することで、自分の将来を考えるきっかけにすることができた。また、3年生は、小学生との交流会を行い、さまざまな遊びを一緒に行うことで交流を深めることができた。さらに、地域のスポーツクラブとの交流活動では、カローリングやグランドゴルフ等、様々なニュースポーツに触れながら、楽しくクラブの方との交流をもつことができた。また、文化祭では、地域の郷土芸能である打囃子の練習に励み、ステージ発表を行っている。

② 防災に係わる学習

年に1回総合防災訓練として、小学校との合同避難訓練のほか、防災マップづくりや避難所設営訓練、引き渡し訓練を実施している。合同避難訓練では、地域の避難所に避難し、自治会長の協力も得ながら進めている。また、消防署や市役所危機管理課の指導をいただき、防災マップづくりや救急救命訓練を実施し、専門的な知識をもっている方から直接学べるよう工夫している。

③ 環境に係わる学習

総合的な学習の時間では、環境に関する学習を行っている。地域を流れる川の水質調査を行い、水道水との違いを調べたり、地域に多い樹木を調べ、ジオラマを作ったりした。環境と防災を関連づけて、津波浸水区域についてもジオラマに反映させ、地域のことを深く考えさせることができた。調査結果を文化祭で発表し、保護者や地域の方も環境への意識高めることができた。



① の写真（職場体験）



①の写真（スポーツクラブとの交流）



②の写真（小中合同避難訓練）



③の写真（水質調査）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解, 文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化, 文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的, 総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍, ウェブサイト, パンフレットなど具体名)

ウェブサイト, 水質調査キット

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教育課程においては、総合的な学習の時間の計画に位置付け、指導している。総合的な学習の時間の計画の中には、職場体験や小学校との交流等地域との関わりに関する学習と、防災に関する学習、文化祭に向けての探究活動の大きく3つに分けて位置づけており、それぞれ学習終了後は、まとめと反省を生徒及び教員で行い、その反省を次年度に生かしている。大きな3つの柱を設定しているが、それぞれの時数や実施時期についても話し合い、生徒が効果的に学びを深められるよう改善している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

防災に関する学習では、学年ごとの活動を基本とし、学年所属教員で役割分担し、一部の教員で指導することのないよう配慮している。文化祭に向けての探究活動では、5つのコースを設定し、学年に関係なく選択させている。選択した生徒の希望や学習内容の特性に応じて、担当教員を割り振り、より深く課題解決ができるようにしている。また、評価についても全職員で行い、多くの目で生徒の成長を見取るよう工夫している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学習活動後、生徒に振り返りシートを記入させている。総合的な学習の時間に行っている様々な活動を通して、どのような力が付いたか振り返らせることで、次年度につなげるようにしている。特に縦割りの探究活動においては、学年を越えた協力体制により、コミュニケーション能力や協力が高まったという成果があった。保護者向けの外部アンケートにおいては、文化祭での郷土芸能は残してほしいという強い希望もあり、そのような評価も参考にしながら、更に学習を深めていく予定である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

文化祭での発表は、保護者だけでなく地域の方も自由に見学できるようにしている。ステージだけでなく展示発表も含め、学習した内容を発信し、それを多くの方が見て、評価していただくことで、生徒の自信につながっているものと思われる。今後は学校のホームページ等、更に多くの方法で発信していく必要がある。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

地域のスポーツクラブとの連携は、毎年継続している。様々なスポーツを通して大人と係わることで、普段得ることのできない経験を積むことができた。また、市役所や消防署との連携で、防災学習を深めることができた。しかし、大学やその他団体とのつながりについては、今後検討し、より密接なネットワークづくりをしていく必要がある。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

震災後に、支援を受けたことから始まった岡山県京山中学校との交流は6年目となった。初めは支援を受けるだけであったが、学校紹介のスライドを作成したり、生徒会役員同士がスカイプで交流するなどの活動に発展した。今年度は、京山中学校の生徒会役員と本校全校生徒によるスカイプ交流、更には、お互いの県や学校の特色を紹介し合う等の交流を持つことができた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒，教員，カリキュラム・教授法，学校経営，地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

部分的に ESD を学校の教育活動に取り入れているが，ホールスクールアプローチまでには至っていない。地域の様々な方と交流することにより，生徒のコミュニケーション能力や考える力が付いてきている。また，文化祭での発表を通して，表現する力を伸ばした生徒が多くいた。今後は，様々な教育活動を ESD の理念に関連付け，より大きな効果を生み出せるよう検討していきたい。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

平成 30 年度も総合的な学習の時間を中心に ESD の活動を進めていく予定である。地域との交流については，昨年度の反省から，小学校との交流の方法を吟味し，より効果的な交流を計画したい。また，文化祭での探究活動では，コースによって ESD との関わりが少ないものもあり，ホールスクールの観点から，ESD に関連づけて進めていきたい。また，防災学習については，市役所の危機管理課，消防署との連携を継続しながら，学習を深めていきたい。

また，さまざまな研修会で紹介していただいた SDGs に関連した活動についても，自校で可能なものを取り入れ，具体的な学習活動として取り組んでいきたい。